



誰もが住んでみたい村に
農業農村整備

令和6年度

国営造成水利施設ストックマネジメント推進事業
笠野原地区地区外導水路機能診断調査業務

積 算 書

(当初)

九州農政局
南部九州土地改良調査管理事務所

九州農政局

九州農政局

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

事業名 国営造成水利施設ストックマネジメント推進事業						
業務名 笠野原地区地区外導水路機能診断調査業務						
業務別業務名:現地調査業務						
コード	名 称	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
	*** S単 - 1号 ***					
S02115	技師 (A)		人		1,000	歩A 当たり算出
	技師 (A)			時間的制約:なし 夜間制約作業時間:0.0	制約作業時間:0.0 冬期補正:なし	
	1)労務コード 2)労務単価算定区分	R04004 基(D2)		豪雪補正:なし 基本給時間:8.0	亜熱帯補正:なし 超勤時間:0.0	
				深夜時間:0.0		
R04004	技師 (A)	1,000	人	57,000	57,000	
	合 計				57,000	算出数量 1,000 人
	単 価				57,000	
	*** S単 - 2号 ***					
S02115	技師 (B)		人		1,000	歩A 当たり算出
	技師 (B)			時間的制約:なし 夜間制約作業時間:0.0	制約作業時間:0.0 冬期補正:なし	
	1)労務コード 2)労務単価算定区分	R04005 基(D2)		豪雪補正:なし 基本給時間:8.0	亜熱帯補正:なし 超勤時間:0.0	
				深夜時間:0.0		
R04005	技師 (B)	1,000	人	47,200	47,200	
	合 計				47,200	算出数量 1,000 人
	単 価				47,200	
	*** S単 - 3号 ***					
S02115	技術員		人		1,000	歩A 当たり算出
	技術員			時間的制約:なし 夜間制約作業時間:0.0	制約作業時間:0.0 冬期補正:なし	
	1)労務コード 2)労務単価算定区分	R04007 基(D2)		豪雪補正:なし 基本給時間:8.0	亜熱帯補正:なし 超勤時間:0.0	
				深夜時間:0.0		
R04007	技術員	1,000	人	33,600	33,600	
	合 計				33,600	算出数量 1,000 人
	単 価				33,600	
	*** S単 - 4号 ***					
S02115	技師 (C)		人		1,000	歩A 当たり算出
	技師 (C)			時間的制約:なし 夜間制約作業時間:0.0	制約作業時間:0.0 冬期補正:なし	
	1)労務コード 2)労務単価算定区分	R04006 基(D2)		豪雪補正:なし 基本給時間:8.0	亜熱帯補正:なし 超勤時間:0.0	
				深夜時間:0.0		
R04006	技師 (C)	1,000	人	38,400	38,400	
	合 計				38,400	算出数量 1,000 人
	単 価				38,400	
	*** S単 - 5号 ***					
S63007	設計労務(直接人件費外業)		式		1,000	歩A 当たり算出
	設計労務(直接人件費外業)			時間的制約:なし 夜間制約作業時間:0.0	制約作業時間:0.0 冬期補正:なし	
	1)主任技術者の人数 2)技師長的人数 3)主任技師の人数 4)技師Aの人数 5)技師Bの人数 6)技師Cの人数 7)技術員の数	0.00人 0.00人 0.00人 1.00人 1.00人 1.00人 1.00人		豪雪補正:なし 基本給時間:8.0	亜熱帯補正:なし 超勤時間:0.0	
				深夜時間:0.0		

事業名 国営造成水利施設ストックマネジメント推進事業						
業務名 笠野原地区地区外導水路機能診断調査業務						
業務別業務名:現地調査業務						
コード	名 称	数 量	単位	単 価	金 額	備 考
R04004	技師 (A)					
	外業	1.000	人	57,000	57,000	
R04005	技師 (B)					
	外業	1.000	人	47,200	47,200	
R04006	技師 (C)					
	外業	1.000	人	38,400	38,400	
R04007	技術員					
	外業	1.000	人	33,600	33,600	
	合 計				176,200	算出数量 1.000 式
	単 価		式		176,200	
	*** S 単 - 6号 ***					
S63017	旅費交通費 (設計外業宿泊用)		式		1.000 式	歩 A 当たり算出
	旅費交通費 (設計外業宿泊用)			時間的制約:なし 夜間制約作業時間:0.0	制約作業時間:0.0 冬期補正:なし	
	乙地,ライトバン,1.00日,2日,3時間,なし,100km L (100km以上)			豪雪補正:なし 基本給時間:8.0	亜熱帯補正:なし 超勤時間:0.0	
	1)宿泊地	乙地		深夜時間:0.0		
	2)交通機関区分	ライトバン				
	3)高速道路往復料金 (税別)	6,690円				
	4)鉄道往復料金[全員分合算] (税別)	0円				
	5)バス往復料金[全員分合算] (税別)	0円				
	6)船舶往復料金[全員分合算] (税別)	0円				
	7)航空往復料金[全員分合算] (税別)	0円				
	8)往復移動日数	1.00日				
	9)ライトバン使用日数	2日				
	10)時間区分	3時間				
	11)補正区分	なし				
	12)技師長外業日数	0.000日				
	13)主任技師外業日数	0.000日				
	14)技師 A 外業日数	17.000日				
	15)技師 B 外業日数	21.000日				
	16)技師 C 外業日数	26.000日				
	17)技術員外業日数	49.000日				
	18)往復移動距離区分	100km L (100km以上)				
P54203	設計用技師 (A) 日当					
	消費税抜き	2.000	人	1,000	2,000	
P54204	設計用技師 (B) 日当					
	消費税抜き	2.000	人	1,000	2,000	
P54205	設計用技師 (C) 日当					
	消費税抜き	2.000	人	1,000	2,000	
P54206	設計用技術員日当					
	消費税抜き	2.000	人	773	1,546	
P54003	設計用技師 (A) 宿泊費					
	(乙地) 消費税抜き (6 級相当)	1.000	人	8,909	8,909	
P54004	設計用技師 (B) 宿泊費					
	(乙地) 消費税抜き (4 級相当)	1.000	人	8,909	8,909	
P54005	設計用技師 (C) 宿泊費					
	(乙地) 消費税抜き (3 級相当)	1.000	人	8,909	8,909	
P54006	設計用技術員宿泊費					
	(乙地) 消費税抜き (2 級相当)	1.000	人	7,090	7,090	
P54113	外業の滞在日額旅費 3 級相当以上					
	宿泊現地到着の翌日より29日目まで	16.000	人	8,354	133,664	
P54113	外業の滞在日額旅費 3 級相当以上					
	宿泊現地到着の翌日より29日目まで	20.000	人	8,354	167,080	
P54113	外業の滞在日額旅費 3 級相当以上					
	宿泊現地到着の翌日より29日目まで	25.000	人	8,354	208,850	
P54112	外業の滞在日額旅費 2 級相当以下					
	宿泊現地到着の翌日より29日目まで	28.000	人	6,736	188,608	
P54114	外業の滞在日額旅費 2 級相当以下					
	宿泊30日目から59日目まで (30日)	20.000	人	6,063	121,260	
P54301	高速道路等料金					
	消費税抜き	1.000	式	6,690	6,690	
M28121	ライトバン[二輪駆動]					
	乗車定員5名 排気量1.5L	2.000	日	1,900	3,800	
P34001	ガソリン					
	J I S 2 号 レギュラースタンド	16.200	L	162	2,624	
	合 計				873,939	算出数量 1.000 式
	単 価		式		873,939	
	*** S 単 - 7号 ***					
S65002	近接目視		式		1.000 式	歩 A 当たり算出
	近接目視			時間的制約:なし 夜間制約作業時間:0.0	制約作業時間:0.0 冬期補正:なし	
	線の構造物,1,319㎡			豪雪補正:なし 基本給時間:8.0	亜熱帯補正:なし 超勤時間:0.0	
	1)対象構造物	線の構造物		深夜時間:0.0		
	2)作業対象面積	1,319㎡				

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

事業名	国営造成水利施設ストックマネジメント推進事業					
業務名	笠野原地区地区外導水路機能診断調査業務					
業務別業務名:設計業務						
コード	名 称 (規 格)	数 量	単位	単 価	金 額	備 考
	*** S単 - 1号 ***					
S63003	4.健全度評価(開水路、暗渠)					
	設計労務(直接人件費内業)		式	118,600		歩A・単A
	*** S単 - 2号 ***					
S63003	5.性能低下予測					
	設計労務(直接人件費内業)		式	97,420		歩A・単A
	*** S単 - 3号 ***					
S63003	6.機能保全対策の検討					
	設計労務(直接人件費内業)		式	241,140		歩A・単A
	*** S単 - 4号 ***					
S63003	7.機能保全コストの算定					
	設計労務(直接人件費内業)		式	154,360		歩A・単A
	*** S単 - 5号 ***					
S63003	8.機能保全計画書の策定					
	設計労務(直接人件費内業)		式	154,280		歩A・単A
	*** S単 - 6号 ***					
S63003	4.健全度評価(開水路、暗渠)					
	設計労務(直接人件費内業)		式	132,860		歩A・単A
	*** S単 - 7号 ***					
S63003	5.性能低下予測					
	設計労務(直接人件費内業)		式	118,160		歩A・単A
	*** S単 - 8号 ***					
S63003	6.機能保全対策の検討					
	設計労務(直接人件費内業)		式	532,200		歩A・単A
	*** S単 - 9号 ***					
S63003	7.機能保全コストの算定					
	設計労務(直接人件費内業)		式	526,060		歩A・単A
	*** S単 - 10号 ***					
S63003	8.機能保全計画書の策定					
	設計労務(直接人件費内業)		式	203,220		歩A・単A
	*** S単 - 11号 ***					
S63007	設計労務(直接人件費外業)					
	設計労務(直接人件費外業)		式	169,000		歩A・単A
	*** S単 - 12号 ***					
S63010	打合せ(設計業務基準日額)					
	打合せ(設計業務基準日額)					
	一般工種,着手前・最終,1.00人,1.00人,0.00人,0.00人,0.5日,0.58日		回	131,544		歩A・単A
	*** S単 - 13号 ***					
S63010	打合せ(設計業務基準日額)					
	打合せ(設計業務基準日額)					
	一般工種,中間,0.00人,1.00人,1.00人,0.00人,0.5日,0.58日		回	112,536		歩A・単A
	*** S単 - 14号 ***					
S63011	打合せ(設計旅費・交通費)					
	打合せ(設計旅費・交通費)					
	一般工種,着手前・最終,通勤により打合せ,,,ライトバン,1日,4時間,100km		回	10,340		歩A・単A
	L(100km以上)					
	*** S単 - 15号 ***					
S63011	打合せ(設計旅費・交通費)					
	打合せ(設計旅費・交通費)					
	一般工種,中間,通勤により打合せ,,,ライトバン,1日,4時間,100km L(100km		回	10,340		歩A・単A
	以上)					
	*** S単 - 16号 ***					
S63017	旅費交通費(設計外業宿泊用)					
	旅費交通費(設計外業宿泊用)		式	106,501		歩A・単A
	乙地,ライトバン,1.00日,2日,3時間,なし,100km L(100km以上)					
	*** S単 - 17号 ***					
S63024	業務報告書作成(その他)					
	業務報告書作成(その他)					
	1,A-4以下,500,1,A-4以下,厚手(金文字入)		式	11,820		歩A・単A
	*** S単 - 18号 ***					
S65501	機能診断【開水路、暗渠】線の構造物 1.2.3.9.10					
	機能診断 線の構造物					
	1.600km,開水路、暗渠		式	407,110		歩A・単A
	*** S単 - 19号 ***					
S65501	機能診断【水路トンネル】線の構造物1.2.3.9.10					
	機能診断 線の構造物					
	3.600km,水路トンネル		式	518,560		歩A・単A

事業名	国営造成水利施設ストックマネジメント推進事業
業務名	笠野原地区地区外導水路機能診断調査業務

業務別業務名:設計業務

コード	名 称	数 量	単位	単 価	金 額	備 考
	*** S 単 - 1号 ***					
S63003	4.健全度評価（開水路、暗渠） 設計労務(直接人件費内業)		式		1,000 式	歩A 当たり算出
	1)主任技術者の人数 2)技師長の人数 3)主任技師の人数 4)技師Aの人数 5)技師Bの人数 6)技師Cの人数 7)技術員の数	0.00人 0.00人 0.20人 0.60人 0.70人 1.00人 0.00人		時間的制約:なし 夜間制約作業時間:0.0 豪雪補正:なし 基本給時間:8.0 深夜時間:0.0	制約作業時間:0.0 冬期補正:なし 亜熱帯補正:なし 超勤時間:0.0	
R04003	主任技師	0.200	人	64,800	12,960	
R04004	技師（A）	0.600	人	57,000	34,200	
R04005	技師（B）	0.700	人	47,200	33,040	
R04006	技師（C）	1.000	人	38,400	38,400	
	合 計				118,600	算出数量 1.000 式
	単 価		式		118,600	
	*** S 単 - 2号 ***					
S63003	5.性能低下予測 設計労務(直接人件費内業)		式		1,000 式	歩A 当たり算出
	1)主任技術者の人数 2)技師長の人数 3)主任技師の人数 4)技師Aの人数 5)技師Bの人数 6)技師Cの人数 7)技術員の数	0.00人 0.00人 0.20人 0.70人 0.70人 0.30人 0.00人		時間的制約:なし 夜間制約作業時間:0.0 豪雪補正:なし 基本給時間:8.0 深夜時間:0.0	制約作業時間:0.0 冬期補正:なし 亜熱帯補正:なし 超勤時間:0.0	
R04003	主任技師	0.200	人	64,800	12,960	
R04004	技師（A）	0.700	人	57,000	39,900	
R04005	技師（B）	0.700	人	47,200	33,040	
R04006	技師（C）	0.300	人	38,400	11,520	
	合 計				97,420	算出数量 1.000 式
	単 価		式		97,420	
	*** S 単 - 3号 ***					
S63003	6.機能保全対策の検討 設計労務(直接人件費内業)		式		1,000 式	歩A 当たり算出
	1)主任技術者の人数 2)技師長の人数 3)主任技師の人数 4)技師Aの人数 5)技師Bの人数 6)技師Cの人数 7)技術員の数	0.00人 0.00人 1.00人 2.10人 1.20人 0.00人 0.00人		時間的制約:なし 夜間制約作業時間:0.0 豪雪補正:なし 基本給時間:8.0 深夜時間:0.0	制約作業時間:0.0 冬期補正:なし 亜熱帯補正:なし 超勤時間:0.0	
R04003	主任技師	1.000	人	64,800	64,800	
R04004	技師（A）	2.100	人	57,000	119,700	
R04005	技師（B）	1.200	人	47,200	56,640	
	合 計				241,140	算出数量 1.000 式
	単 価		式		241,140	
	*** S 単 - 4号 ***					
S63003	7.機能保全コストの算定		式		1,000 式	歩A 当たり算出

事業名 国営造成水利施設ストックマネジメント推進事業						
業務名 笠野原地区地区外導水路機能診断調査業務						
業務別業務名:設計業務						
コード	名 称	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
	設計労務(直接人件費内業)			時間的制約:なし 夜間制約作業時間:0.0	制約作業時間:0.0 冬期補正:なし	
	1)主任技術者の人数	0.00人		豪雪補正:なし	亜熱帯補正:なし	
	2)技師長の人数	0.00人		基本給時間:8.0	超勤時間:0.0	
	3)主任技師の人数	0.00人		深夜時間:0.0		
	4)技師Aの人数	0.60人				
	5)技師Bの人数	1.00人				
	6)技師Cの人数	1.90人				
	7)技術員の数	0.00人				
R04004	技師 (A)	0.600	人	57,000	34,200	
R04005	技師 (B)	1.000	人	47,200	47,200	
R04006	技師 (C)	1.900	人	38,400	72,960	
	合 計				154,360	算出数量 1.000 式
	単 価		式		154,360	
*** S単 - 5号 ***						
S63003	8.機能保全計画書の策定		式		1.000 式	歩A 当たり算出
	設計労務(直接人件費内業)			時間的制約:なし 夜間制約作業時間:0.0	制約作業時間:0.0 冬期補正:なし	
	1)主任技術者の人数	0.00人		豪雪補正:なし	亜熱帯補正:なし	
	2)技師長の人数	0.00人		基本給時間:8.0	超勤時間:0.0	
	3)主任技師の人数	0.70人		深夜時間:0.0		
	4)技師Aの人数	1.00人				
	5)技師Bの人数	1.10人				
	6)技師Cの人数	0.00人				
	7)技術員の数	0.00人				
R04003	主任技師	0.700	人	64,800	45,360	
R04004	技師 (A)	1.000	人	57,000	57,000	
R04005	技師 (B)	1.100	人	47,200	51,920	
	合 計				154,280	算出数量 1.000 式
	単 価		式		154,280	
*** S単 - 6号 ***						
S63003	4.健全度評価(開水路、暗渠)		式		1.000 式	歩A 当たり算出
	設計労務(直接人件費内業)			時間的制約:なし 夜間制約作業時間:0.0	制約作業時間:0.0 冬期補正:なし	
	1)主任技術者の人数	0.00人		豪雪補正:なし	亜熱帯補正:なし	
	2)技師長の人数	0.00人		基本給時間:8.0	超勤時間:0.0	
	3)主任技師の人数	0.20人		深夜時間:0.0		
	4)技師Aの人数	0.70人				
	5)技師Bの人数	0.80人				
	6)技師Cの人数	1.10人				
	7)技術員の数	0.00人				
R04003	主任技師	0.200	人	64,800	12,960	
R04004	技師 (A)	0.700	人	57,000	39,900	
R04005	技師 (B)	0.800	人	47,200	37,760	
R04006	技師 (C)	1.100	人	38,400	42,240	
	合 計				132,860	算出数量 1.000 式
	単 価		式		132,860	
*** S単 - 7号 ***						
S63003	5.性能低下予測		式		1.000 式	歩A 当たり算出
	設計労務(直接人件費内業)			時間的制約:なし 夜間制約作業時間:0.0	制約作業時間:0.0 冬期補正:なし	
	1)主任技術者の人数	0.00人		豪雪補正:なし	亜熱帯補正:なし	
	2)技師長の人数	0.00人		基本給時間:8.0	超勤時間:0.0	
	3)主任技師の人数	0.30人		深夜時間:0.0		
	4)技師Aの人数	0.80人				

事業名		国営造成水利施設ストックマネジメント推進事業				
業務名		笠野原地区地区外導水路機能診断調査業務				
業務別業務名:設計業務						
コード	名 称	数 量	単位	単 価	金 額	備 考
	5)技師Bの人数	0.80人				
	6)技師Cの人数	0.40人				
	7)技術員の人数	0.00人				
R04003	主任技師					
		0.300	人	64,800	19,440	
R04004	技師（ A ）					
		0.800	人	57,000	45,600	
R04005	技師（ B ）					
		0.800	人	47,200	37,760	
R04006	技師（ C ）					
		0.400	人	38,400	15,360	
	合 計				118,160	算出数量 1.000 式
	単 価		式		118,160	
	*** S単 - 8号 ***					
S63003	6.機能保全対策の検討		式		1.000 式	歩A 当たり算出
	設計労務(直接人件費内業)			時間的制約:なし 夜間制約作業時間:0.0	制約作業時間:0.0 冬期補正:なし	
	1)主任技術者の人数	0.00人		豪雪補正:なし	亜熱帯補正:なし	
	2)技師長の人数	0.00人		基本給時間:8.0	超勤時間:0.0	
	3)主任技師の人数	2.20人		深夜時間:0.0		
	4)技師Aの人数	4.60人				
	5)技師Bの人数	2.70人				
	6)技師Cの人数	0.00人				
	7)技術員の人数	0.00人				
R04003	主任技師					
		2.200	人	64,800	142,560	
R04004	技師（ A ）					
		4.600	人	57,000	262,200	
R04005	技師（ B ）					
		2.700	人	47,200	127,440	
	合 計				532,200	算出数量 1.000 式
	単 価		式		532,200	
	*** S単 - 9号 ***					
S63003	7.機能保全コストの算定		式		1.000 式	歩A 当たり算出
	設計労務(直接人件費内業)			時間的制約:なし 夜間制約作業時間:0.0	制約作業時間:0.0 冬期補正:なし	
	1)主任技術者の人数	0.00人		豪雪補正:なし	亜熱帯補正:なし	
	2)技師長の人数	0.00人		基本給時間:8.0	超勤時間:0.0	
	3)主任技師の人数	0.00人		深夜時間:0.0		
	4)技師Aの人数	1.90人				
	5)技師Bの人数	3.40人				
	6)技師Cの人数	6.70人				
	7)技術員の人数	0.00人				
R04004	技師（ A ）					
		1.900	人	57,000	108,300	
R04005	技師（ B ）					
		3.400	人	47,200	160,480	
R04006	技師（ C ）					
		6.700	人	38,400	257,280	
	合 計				526,060	算出数量 1.000 式
	単 価		式		526,060	
	*** S単 - 10号 ***					
S63003	8.機能保全計画書の策定		式		1.000 式	歩A 当たり算出
	設計労務(直接人件費内業)			時間的制約:なし 夜間制約作業時間:0.0	制約作業時間:0.0 冬期補正:なし	
	1)主任技術者の人数	0.00人		豪雪補正:なし	亜熱帯補正:なし	
	2)技師長の人数	0.00人		基本給時間:8.0	超勤時間:0.0	
	3)主任技師の人数	0.90人		深夜時間:0.0		
	4)技師Aの人数	1.30人				
	5)技師Bの人数	1.50人				
	6)技師Cの人数	0.00人				
	7)技術員の人数	0.00人				
R04003	主任技師					
		0.900	人	64,800	58,320	

事業名 国営造成水利施設ストックマネジメント推進事業						
業務名 笠野原地区地区外導水路機能診断調査業務						
業務別業務名:設計業務						
コード	名 称	数 量	単位	単 価	金 額	備 考
R04004	技師 (A)	1.300	人	57,000	74,100	
R04005	技師 (B)	1.500	人	47,200	70,800	
	合 計				203,220	算出数量 1.000 式
	単 価		式		203,220	
	*** S 単 - 11号 ***					
S63007	設計労務(直接人件費外業)		式		1.000 式	歩 A 当たり算出
	設計労務(直接人件費外業)			時間的制約:なし 夜間制約作業時間:0.0	制約作業時間:0.0 冬期補正:なし	
	1)主任技術者の人数	0.00人		豪雪補正:なし	亜熱帯補正:なし	
	2)技師長の人数	0.00人		基本給時間:8.0	超勤時間:0.0	
	3)主任技師の人数	1.00人		深夜時間:0.0		
	4)技師 A の人数	1.00人				
	5)技師 B の人数	1.00人				
	6)技師 C の人数	0.00人				
	7)技術員の数	0.00人				
R04003	主任技師 外業	1.000	人	64,800	64,800	
R04004	技師 (A) 外業	1.000	人	57,000	57,000	
R04005	技師 (B) 外業	1.000	人	47,200	47,200	
	合 計				169,000	算出数量 1.000 式
	単 価		式		169,000	
	*** S 単 - 12号 ***					
S63010	打合せ (設計業務基準日額)		回		1.000 回	歩 A 当たり算出
	打合せ (設計業務基準日額)			時間的制約:なし 夜間制約作業時間:0.0	制約作業時間:0.0 冬期補正:なし	
	一般工種,着手前・最終,1.00人,1.00人,0.00人,0.00人,0.5日,0.58日			豪雪補正:なし 基本給時間:8.0	亜熱帯補正:なし 超勤時間:0.0	
	1)設計工種	一般工種		深夜時間:0.0		
	2)打合せ	着手前・最終				
	3)設計用主任技師人数	1.00人				
	4)設計用技師 (A)人数	1.00人				
	5)設計用技師 (B)人数	0.00人				
	6)設計用技師 (C)人数	0.00人				
	7)打合せ日数	0.500日				
	8)往復移動日数	0.580日				
R04003	主任技師	1.080	人	64,800	69,984	
R04004	技師 (A)	1.080	人	57,000	61,560	
	合 計				131,544	算出数量 1.000 回
	単 価		回		131,544	
	*** S 単 - 13号 ***					
S63010	打合せ (設計業務基準日額)		回		1.000 回	歩 A 当たり算出
	打合せ (設計業務基準日額)			時間的制約:なし 夜間制約作業時間:0.0	制約作業時間:0.0 冬期補正:なし	
	一般工種,中間,0.00人,1.00人,1.00人,0.00人,0.5日,0.58日			豪雪補正:なし 基本給時間:8.0	亜熱帯補正:なし 超勤時間:0.0	
	1)設計工種	一般工種		深夜時間:0.0		
	2)打合せ	中間				
	3)設計用主任技師人数	0.00人				
	4)設計用技師 (A)人数	1.00人				
	5)設計用技師 (B)人数	1.00人				
	6)設計用技師 (C)人数	0.00人				
	7)打合せ日数	0.500日				
	8)往復移動日数	0.580日				
R04004	技師 (A)	1.080	人	57,000	61,560	
R04005	技師 (B)	1.080	人	47,200	50,976	
	合 計				112,536	算出数量 1.000 回
	単 価		回		112,536	

事業名	国営造成水利施設ストックマネジメント推進事業
業務名	笠野原地区地区外導水路機能診断調査業務

業務別業務名:設計業務

コード	名 称	数 量	単位	単 価	金 額	備 考
	*** S 単 - 14号 ***					
S63011	打合せ（設計旅費・交通費）		回		1.000 回	歩A 当たり算出
	打合せ（設計旅費・交通費） 一般工種,着手前・最終,通勤により打合せ,,,ライトバン,1日,4時間,100km L（100km以上）			時間的制約:なし 夜間制約作業時間:0.0	制約作業時間:0.0 冬期補正:なし	
				豪雪補正:なし 基本給時間:8.0	亜熱帯補正:なし 超勤時間:0.0	
	1)設計工種	一般工種		深夜時間:0.0		
	2)打合せ内容	着手前・最終				
	3)主任技師配置人員	1人				
	4)技師 A 配置人員	1人				
	5)技師 B 配置人員	0人				
	6)技師 C 配置人員	0人				
	7)打合せ日数	0.50日				
	8)往復移動日数	0.58日				
	9)宿泊区分	通勤により打合せ				
	12)交通機関区分	ライトバン				
	13)高速道路往復料金（税別）	6,690円				
	14)鉄道往復1人当料金（税別）	0円				
	15)バス往復1人当料金（税別）	0円				
	16)船舶往復1人当料金（税別）	0円				
	17)航空往復1人当料金（税別）	0円				
	18)ライトバン使用日数	1日				
	19)時間区分	4時間				
	20)往復移動距離区分	100km L（100km以上）				
P54301	高速道路等料金					
	消費税抜き	1.000	式	6,690	6,690	
M28121	ライトバン[二輪駆動] 乗車定員5名 排気量1.5L	1.000	日	1,900	1,900	
P34001	ガソリン J I S 2号 レギュラースタンド	10.800	L	162	1,750	
	合 計				10,340	算出数量 1.000 回
	単 価		回		10,340	
	*** S 単 - 15号 ***					
S63011	打合せ（設計旅費・交通費）		回		1.000 回	歩A 当たり算出
	打合せ（設計旅費・交通費） 一般工種,中間,通勤により打合せ,,,ライトバン,1日,4時間,100km L（100km以上）			時間的制約:なし 夜間制約作業時間:0.0	制約作業時間:0.0 冬期補正:なし	
				豪雪補正:なし 基本給時間:8.0	亜熱帯補正:なし 超勤時間:0.0	
	1)設計工種	一般工種		深夜時間:0.0		
	2)打合せ内容	中間				
	3)主任技師配置人員	0人				
	4)技師 A 配置人員	1人				
	5)技師 B 配置人員	1人				
	6)技師 C 配置人員	0人				
	7)打合せ日数	0.50日				
	8)往復移動日数	0.58日				
	9)宿泊区分	通勤により打合せ				
	12)交通機関区分	ライトバン				
	13)高速道路往復料金（税別）	6,690円				
	14)鉄道往復1人当料金（税別）	0円				
	15)バス往復1人当料金（税別）	0円				
	16)船舶往復1人当料金（税別）	0円				
	17)航空往復1人当料金（税別）	0円				
	18)ライトバン使用日数	1日				
	19)時間区分	4時間				
	20)往復移動距離区分	100km L（100km以上）				
P54301	高速道路等料金					
	消費税抜き	1.000	式	6,690	6,690	
M28121	ライトバン[二輪駆動] 乗車定員5名 排気量1.5L	1.000	日	1,900	1,900	
P34001	ガソリン J I S 2号 レギュラースタンド	10.800	L	162	1,750	
	合 計				10,340	算出数量 1.000 回
	単 価		回		10,340	
	*** S 単 - 16号 ***					
S63017	旅費交通費（設計外業宿泊用）		式		1.000 式	歩A 当たり算出
	旅費交通費（設計外業宿泊用） 乙地,ライトバン,1.00日,2日,3時間,なし,100km L（100km以上）			時間的制約:なし 夜間制約作業時間:0.0	制約作業時間:0.0 冬期補正:なし	
	1)宿泊地	乙地		豪雪補正:なし 基本給時間:8.0	亜熱帯補正:なし 超勤時間:0.0	
	2)交通機関区分	ライトバン		深夜時間:0.0		
	3)高速道路往復料金（税別）	6,690円				
	4)鉄道往復料金[全員分合算]（税別）	0円				

事業名	国営造成水利施設ストックマネジメント推進事業
業務名	笠野原地区地区外導水路機能診断調査業務

業務別業務名:設計業務

コード	名 称	数 量	単位	単 価	金 額	備 考
	5)バス往復料金[全員分合算] (税別)	0円				
	6)船舶往復料金[全員分合算] (税別)	0円				
	7)航空往復料金[全員分合算] (税別)	0円				
	8)往復移動日数	1.00日				
	9)ライトバン使用日数	2日				
	10)時間区分	3時間				
	11)補正区分	なし				
	12)技師長外業日数	0.000日				
	13)主任技師外業日数	2.200日				
	14)技師 A 外業日数	3.100日				
	15)技師 B 外業日数	2.700日				
	16)技師 C 外業日数	0.000日				
	17)技術員外業日数	0.000日				
	18)往復移動距離区分	100km L (100km以上)				
P54202	設計用主任技師日当					
	消費税抜き	2.000	人	1,182	2,364	
P54203	設計用技師 (A) 日当					
	消費税抜き	2.000	人	1,000	2,000	
P54204	設計用技師 (B) 日当					
	消費税抜き	2.000	人	1,000	2,000	
P54002	設計用主任技師宿泊費					
	(乙地) 消費税抜き (7 級相当)	1.000	人	10,727	10,727	
P54003	設計用技師 (A) 宿泊費					
	(乙地) 消費税抜き (6 級相当)	1.000	人	8,909	8,909	
P54004	設計用技師 (B) 宿泊費					
	(乙地) 消費税抜き (4 級相当)	1.000	人	8,909	8,909	
P54113	外業の滞在日額旅費 3 級相当以上					
	宿泊現地到着の翌日より29日目まで	2.000	人	8,354	16,708	
P54113	外業の滞在日額旅費 3 級相当以上					
	宿泊現地到着の翌日より29日目まで	3.000	人	8,354	25,062	
P54113	外業の滞在日額旅費 3 級相当以上					
	宿泊現地到着の翌日より29日目まで	2.000	人	8,354	16,708	
P54301	高速道路等料金					
	消費税抜き	1.000	式	6,690	6,690	
M28121	ライトバン[二輪駆動]					
	乗車定員5名 排気量1.5L	2.000	日	1,900	3,800	
P34001	ガソリン					
	J I S 2 号 レギュラースタンド	16.200	L	162	2,624	
	合 計				106,501	算出数量 1.000 式
	単 価		式		106,501	
	*** S 単 - 17号 ***					
S63024	業務報告書作成 (その他)		式		1.000 式	歩 A 当たり算出
	業務報告書作成 (その他)					
	1. A - 4 以下,500,1, A - 4 以下,厚手 (金文字入)			時間的制約:なし 夜間制約作業時間:0.0	制約作業時間:0.0 冬期補正:なし	
	1)報告書焼付部数(部)	1		豪雪補正:なし	亜熱帯補正:なし	
	2)報告書規格区分	A - 4 以下		基本給時間:8.0	超勤時間:0.0	
	3)原稿枚数区分(枚)	500		深夜時間:0.0		
	4)表紙部数 (部)	1				
	5)表紙規格区分	A - 4 以下				
	6)表紙区分	厚手 (金文字入)				
P43422	報告書焼付代 (コピ -)					
	A - 4 以下 5 0 0 枚	1.000	部	6,750	6,750	
P43450	報告書表紙代					
	厚手 (金文字入) A - 4	1.000	部	5,070	5,070	
	合 計				11,820	算出数量 1.000 式
	単 価		式		11,820	
	*** S 単 - 18号 ***					
S65501	機能診断【開水路、暗渠】線の構造物 1.2.3.9.10		式		1.000 式	歩 A 当たり算出
	機能診断 線の構造物					
	1.600km,開水路、暗渠			時間的制約:なし 夜間制約作業時間:0.0	制約作業時間:0.0 冬期補正:なし	
	1)設計対象延長	1.600km		豪雪補正:なし	亜熱帯補正:なし	
	2)対象工種	開水路、暗渠		基本給時間:8.0	超勤時間:0.0	
	3)1.業務準備	計上する		深夜時間:0.0		
	4)2-1.事前調査資料調査	計上する				
	5)2-2.事前調査問診調査	計上する				
	6)3.施設機能の検討	計上する				
	8)5.性能低下要因の推定	計上しない				
	9)6.水利・水理機能検討	計上しない				
	10)9.詳細調査計画立案	計上しない				
	11)10.健全度評価	計上しない				
	12)11.性能低下予測	計上しない				
	13)12.管理水準の設定	計上しない				
	14)13.機能保全対策の検討	計上しない				
	15)14.機能保全コストの算定	計上しない				

事業名	国営造成水利施設ストックマネジメント推進事業
業務名	笠野原地区地区外導水路機能診断調査業務

業務別業務名:設計業務

コード	名 称	数 量	単位	単 価	金 額	備 考
	16)15.機能保全計画の策定	計上しない				
	17)16.農業水利ストック情報データ入力・登録	計上する				
	18)17.点検とりまとめ	計上する				
	19)1個別補正現地調査	0.50				
	20)2-1個別補正資料調査	0.73				
	21)2-2個別補正問診調査	0.66				
	22)3個別補正施設機能の検討	0.45				
	23)4個別補正施設の重要度評価	1.00				
	24)5個別補正性能低下要因の推定	0.53				
	25)6個別補正水利・水理機能検討	0.30				
	26)9個別補正詳細調査計画立案	0.65				
	27)10個別補正健全度評価	0.71				
	28)11個別補正性能低下予測	0.56				
	29)12個別補正管理水準の設定	0.49				
	30)13個別補正機能保全対策の検討	0.58				
	31)14個別補正機能保全コストの算定	0.22				
	32)15個別補正機能保全計画の策定	0.40				
	33)16個別補正ストック情報データ入力・登録	0.75				
	34)17個別補正点検取りまとめ	0.45				
R04003	主任技師 内業	1.090	人	64,800	70,632	
R04004	技師 (A) 内業	2.230	人	57,000	127,110	
R04005	技師 (B) 内業	2.890	人	47,200	136,408	
R04006	技師 (C) 内業	1.900	人	38,400	72,960	
	合 計				407,110	算出数量 1.000 式
	単 価		式		407,110	
	*** S 単 - 19号 ***					
S65501	機能診断【水路トンネル】線の構造物1.2.3.9.10		式		1.000 式	歩A 当たり算出
	機能診断 線の構造物 3.600km,水路トンネル			時間的制約:なし 夜間制約作業時間:0.0	制約作業時間:0.0 冬期補正:なし	
	1)設計対象延長	3.600km		豪雪補正:なし 基本給時間:8.0	亜熱帯補正:なし 超勤時間:0.0	
	2)対象工種	水路トンネル		深夜時間:0.0		
	3)1.業務準備	計上する				
	4)2-1.事前調査資料調査	計上する				
	5)2-2.事前調査問診調査	計上する				
	6)3.施設機能の検討	計上する				
	8)5.性能低下要因の推定	計上しない				
	9)6.水利・水理機能検討	計上しない				
	10)9.詳細調査計画立案	計上しない				
	11)10.健全度評価	計上しない				
	12)11.性能低下予測	計上しない				
	13)12.管理水準の設定	計上しない				
	14)13.機能保全対策の検討	計上しない				
	15)14.機能保全コストの算定	計上しない				
	16)15.機能保全計画の策定	計上しない				
	17)16.農業水利ストック情報データ入力・登録	計上する				
	18)17.点検とりまとめ	計上する				
	19)1個別補正現地調査	0.62				
	20)2-1個別補正資料調査	0.50				
	21)2-2個別補正問診調査	0.74				
	22)3個別補正施設機能の検討	0.58				
	23)4個別補正施設の重要度評価	0.64				
	24)5個別補正性能低下要因の推定	0.47				
	25)6個別補正水利・水理機能検討	0.73				
	26)9個別補正詳細調査計画立案	0.73				
	27)10個別補正健全度評価	0.78				
	28)11個別補正性能低下予測	0.67				
	29)12個別補正管理水準の設定	0.61				
	30)13個別補正機能保全対策の検討	0.68				
	31)14個別補正機能保全コストの算定	0.40				
	32)15個別補正機能保全計画の策定	0.54				
	33)16個別補正ストック情報データ入力・登録	0.81				
	34)17個別補正点検取りまとめ	0.58				
R04003	主任技師 内業	1.740	人	64,800	112,752	
R04004	技師 (A) 内業	3.040	人	57,000	173,280	
R04005	技師 (B) 内業	3.340	人	47,200	157,648	
R04006	技師 (C) 内業	1.950	人	38,400	74,880	
	合 計				518,560	算出数量 1.000 式
	単 価		式		518,560	

[illegible]

令和6年度 国営造成水利施設ストックマネジメント推進事業
笠野原地区地区外導水路機能診断調査業務

特 別 仕 様 書

九州農政局 南部九州土地改良調査管理事務所

第1章 総 則

第1 - 1条（適用範囲）

令和6年度 国営造成水利施設ストックマネジメント推進事業 笠野原地区地区外導水路機能診断調査業務の施行にあたっては、農林水産省農村振興局制定「設計業務共通仕様書」（以下「共通仕様書」という。）によるほか、同仕様書に対する特記及び追加事項は、この特別仕様書によるものとする。

第1 - 2条（目的）

本業務は、国営笠野原土地改良事業（昭和34年度～昭和44年度）で造成された地区外導水路の機能診断調査を行うと共に、過年度に実施した機能保全計画の更新を行うものである。

第1 - 3条（場所）

本業務の対象場所は、鹿児島県鹿屋市上高隈町及び下高隈町地内で別添位置図に示すとおりである。

第1 - 4条（土地への立入り等）

作業実施のための土地の立入り等は、共通仕様書第1 - 16条によるが、発注者の許可無く土地の踏み荒らし、立木伐採等行った場合に対する補償は、受注者の責任において処理するものとする。

第1 - 5条（履行確実性評価の達成状況の確認）

本業務の受注にあたり、調査基準価格を下回る金額で受注した場合には、履行確実性評価の審査で提出した追加資料について、業務実施状況を踏まえた実施額に修正し、これを裏付ける資料とともに、業務完了検査時に提出するものとする。その上で、提出された資料をもとに以下の内容について履行確実性評価の達成状況を確認し、その結果を業務成績に反映させるものとする。

なお、業務完了検査時まで提出されない場合には以降の提出を受け付けず、業務成績評価に厳格に反映させるものとする。

- 1．審査項目a)～c)において、審査時に比較して正当な理由なく必要額を下回った場合
- 2．審査項目d)において、審査時に比較して正当な理由なく再委託額が下回った場合
- 3．その他、業務計画書等に示された、実施体制、実施手順、工程計画が正当な理由なく異なる等、業務実施体制に関する問題が生じた場合
- 4．業務成果品のミス、不備等

第1 - 6条（一般事項）

業務請負契約書及び共通仕様書に示す以外の一般事項は、次のとおりである。

- 1．作業実施の順序、方法等は監督職員と密接な連絡を取り、作業の円滑な進捗を図るものとする。
- 2．作業に従事する技術者は、対象業務に十分な知識と経験を有した者とする。
- 3．受注者は常に業務内容を把握し、業務期間中に監督職員が資料の提出を求めた場合は速やかにこれに応じるものとする。

第1 - 7条（管理技術者）

- 1．管理技術者は、共通仕様書第1 - 6条第3項によるものとし、農業土木技術管理士、農業水利施設機能総合診断士以外の業務に該当する技術部門・選択科目は次のとおりである。

資 格	技術部門	選択科目
技 術 士	総合技術監理	農業 - 農業土木 農業 - 農業農村工学
	農 業	農業土木 農業農村工学
博 士	当該業務に関連する学術部門	
ビルコンサルティング マネージャー	農業土木	

2. 調査基準価格を下回る価格で契約した場合においては、管理技術者は屋外で行う調査の実施に際して現場に常駐するとともに、作業日毎に業務の内容を監督職員に報告しなければならない。

なお、管理技術者が現場での常駐場所を定めた場合、あるいは変更した場合は監督職員に報告することとする。

第 1 - 8 条（担当技術者）

担当技術者は共通仕様書第 1 - 8 条によるものとする。

第 1 - 9 条（配置技術者の確認）

共通仕様書第 1 - 11 条における業務組織計画の作成及び共通仕様書第 1 - 12 条に基づく技術者情報の登録にあたっては、次によるものとする。

1. 受注者は、業務計画書の業務組織計画に配置技術者の所属・役職および担当する分担業務を明確に記載するものとする。なお、変更業務計画書において、業務組織計画を変更する際も同様とする。
2. 農業農村整備事業測量調査設計業務実績情報サービスへの技術者情報の登録は、業務計画書の業務組織計画において位置付けられた技術者を登録対象とする。

第 1 - 10 条（保険加入）

受注者は、共通仕様書第 1 - 37 条に記載されている保険に加入している旨を業務計画書に明示しなければならない。また監督職員から請求があった場合は、保険加入を証明する書類を提示しなければならない。

第 2 章 作業条件

第 2 - 1 条（適用する図書）

本業務の基本的事項に関しては、次に示す図書によるものとする。他の図書を適用する場合は、監督職員の承諾を得るものとする。

番号	名 称	発 行 所	制定(改訂)年月
1	農業水利施設の機能保全の手引き（参考資料編含む）	食料・農業・農村政策審議会 農業農村整備部会 技術小委員会	令和 5 年 4 月
2	農業水利施設の機能保全の手引き「水路トンネル」	農林水産省 農村振興局	平成 28 年 8 月
3	農業水利施設の機能保全の手引き「開水路」	農林水産省 農村振興局	平成 28 年 8 月
4	農業水利施設の機能保全の手引き「パイプライン」	農林水産省 農村振興局	平成 28 年 8 月

5	農業水利施設の長寿命化のための手引き	農林水産省 農村振興局	平成 27 年 11 月
---	--------------------	----------------	--------------

第 2 - 2 条 (作業条件)

本業務の実施にあたっては、以下の事項に留意して作業を進めるものとする。

1. 作業の実施にあたっては、事前に作業方法及び具体的な工程計画を立案し、監督職員が指示するものと十分打合せを行い手戻りのないよう留意しなければならない。
2. 本業務において生じた第三者との紛争で受注者の責に帰する事項は、受注者の責任において処理しなければならない。
3. 作業上、支障となる状態が発生した場合は、監督職員と協議するものとする。
4. 現地調査時の断水期間は、1 回当たり 3 日以内を想定しており、監督職員が施設管理者と調整し、別途指示する。
5. 現地調査の結果、仮設等が必要となった場合は監督職員と協議するものとする。
6. 作業上、支障となる状態が発生した場合は、監督職員と協議するものとする。
7. 水路トンネルの空洞調査箇所は、各隧道上部の 1 地点で 3 箇所とし、調査箇所の詳細は、監督職員が別途指示する。
8. 2 号～ 4 号隧道と 3 号開渠の近接目視（線的構造物）の調査測点について、9 m～12m を想定しており、現地踏査の結果を踏まえ変更する場合は、監督職員と協議するものとする。
9. 10 号隧道（補強済区間）においては、変状の有無や変状箇所が確認された場合は、機能診断作業を追加することがある。
10. 現地調査作業における調査箇所及び数量については、監督職員の指示により別途追加することがある。

第 2 - 3 条 (対象施設)

本業務の対象となる施設等詳細は別紙 3 の「機能診断調査対象施設一覧表」による。

第 2 - 4 条 (参考図書)

本業務の参考にする図書は、共通仕様書第 2 - 1 条によるほか次表によるものとする。

番号	図書・資料名称	発行所	制定(発行)年月
1	コンクリートのひび割れ調査、補修・補強指針 -2022-	(公社)日本コンクリート工学会	令和 4 年 6 月
2	コンクリート診断技術 ' 23	(公社)日本コンクリート工学会	令和 5 年 5 月
3	コンクリート標準示方書(設計編)	(公社)土木学会	令和 5 年 3 月
4	コンクリート標準示方書(施工編)	(公社)土木学会	平成 30 年 3 月
5	コンクリート標準示方書(維持管理編)	(公社)土木学会	令和 5 年 3 月
6	農業水利施設の補修・補強工事に関するマニュアル【水路トンネル編】	農林水産省 農村振興局	令和 3 年 6 月
7	農業水利施設の補修・補強工事に関するマニュアル【開水路編】	農林水産省 農村振興局	令和 5 年 3 月

8	農業水利施設の補修・補強工事に関するマニュアル【パイプライン編】(案)	農林水産省 農村振興局	平成 29 年 4 月
9	農業水利施設のコンクリート構造物 調査・評価・対策工法選定マニュアル	農林水産省 農村振興局	平成 19 年 4 月
10	農業水利施設の機能保全に関する調査計画の参考資料(計画編・調査編)(案)	農林水産省 農村振興局	平成 30 年 3 月

第 2 - 5 条 (貸与資料)

貸与資料は、次のとおりである。

番号	貸 与 資 料	数 量
1	平成 14 年度 導水路施設機能調査業務 報告書	1 部
2	平成 23 年度 国営造成水利施設保全対策指導事業 笠野原地区施設機能診断調査業務 報告書	1 部
3	平成 29 年度 笠野原国営施設機能保全事業 長寿命化計画補足検討業務 報告書	1 部
4	令和 3 年度 国営施設応急対策事業 笠野原地区施設機能長寿命化計画策定その他業務 報告書	1 部
5	令和 4 年度 地域整備方向検討調査 笠野原地域地区外導水路整備構想検討業務 報告書	1 部
6	令和 4 年度 笠野原国営施設機能保全事業 計画変更説明資料等修正業務 報告書	1 部

また、上記以外に必要な資料がある場合は監督職員と協議するものとする。

第 2 - 6 条 (参考図書及び貸与資料の取扱い)

第 2 - 4 条、第 2 - 5 条に示す参考図書及び貸与資料の取扱いは次のとおりとする。

1. 参考図書及び貸与資料の記載事項に相互に矛盾がある場合、又は解釈に疑義が生じた場合は、監督職員と協議するものとする。
2. 参考図書は、作業時点の最新版を用いることとし、改訂された場合は、監督職員と協議するものとする。
3. 貸与資料は、原則として初回打合せ時に一括貸与するものとし、監督職員の請求があった場合のほか完了検査時に一括返納しなければならない。

第 2 - 7 条 (関連業務)

本業務と関連する他業務は次のとおりであり、監督職員及び関連業務の管理技術者と連携を密にして、互いに協調の図られた業務成果としなければならない。

業 務 名	業務実施期間
令和 6 年度 地域整備方向検討調査 笠野原地域とりまとめ他検討業務	R 6 . 4 ~ R 7 . 3 (予定)
令和 6 年度 地域整備方向検討調査 笠野原地域環境配慮整備構想補足検討業務(仮称)	R 6 . 6 ~ R 7 . 3 (予定)

第3章 作業内容

第3-1条（作業項目及び数量）

本業務における作業項目及び数量は、次の作業項目表のとおりである。

なお、詳細は別紙1の「1．現地調査作業項目内訳表」及び別紙2の「2．現地調査作業項目数量表」、別紙4の「4．機能診断作業項目内訳表（開水路、暗渠）」及び別紙5の「5．機能診断作業項目内訳表（水路トンネル）」に示すものとする。

作業項目表

作 業 項 目	数 量	備 考
現地調査作業	1 式	
機能診断作業	1 式	

第3-2条（作業の留意点）

業務の実施にあたって、特に留意する点は次のとおりとする。

- 1．現地調査において著しく機能が低下している施設を発見した場合は、遅滞なく監督職員へ報告するものとする。
- 2．現地踏査等施設の状況確認においては、できる限り施設管理者の同行により意見・助言を受けて実施するものとする。
- 3．対策内容の検討にあたっては、当該施設が必要な機能及び安全で所要の耐久性を有するとともに維持管理、施工性及び経済性について考慮しなければならない。
- 4．電算機を使用する場合は、計算手法及びアウトプット等の様式について事前に監督職員の承諾を得るものとする。
- 5．第2-4条、第2-5条及び共通仕様書に示す参考図書、貸与資料や受注者が有する資料等を参考にした場合は、その出典を明示するものとする。
- 6．機能保全対策シナリオの検討にあたっては、最新の新素材、新工法などの技術情報の収集に努めた上で、比較検討を行う。新技術や新工法等の選定にあたっては、農業農村整備民間技術情報データベース（NNTD）及び新技術情報システム（NETIS）等を積極的に活用しなければならない。
 - ・農業農村整備民間技術情報データベース（NNTD）については、http://www.nn-techinfo.jp/mdb_web/MdbTop.do を参照。
 - ・新技術情報システム（NETIS）
<http://www.netis.mlit.go.jp/NetisRev/NewIndex.asp> を参照。
- 7．対策内容の検討にあたっては、事業への適用性や施設管理者の管理体制等を総合的に検討する。
- 8．数量計算にあたっては、「工事工種の体系化」に基づき作成するものとする。

なお、「工事工種の体系化」に該当しない工種や用語については、監督職員と協議するものとする。

 - ・「工事工種の体系化」はhttp://www.maff.go.jp/j/nousin/seko/kouzi_kousyu/を参照。
- 9．農業水利ストック情報データの作成は、機能診断情報記入用Excelファイルによる入力のほか、登録情報データ外部入出力機能等を適宜使用することを基本とするが、作業方法、内容等について監督職員と十分協議を行った上作業を行うものとする。なお、作成した電子データは成果物に含むものとする。

第3-3条（業務写真における黑板情報の電子化）

黑板情報の電子化は、被写体画像の撮影と同時に業務写真における黑板の記載情報の電子的記入を行うことにより、現場撮影の省力化、写真整理の効率化を図るものである。

受注者は、業務契約後に監督職員の承諾を得たうえで黑板情報の電子化を行うことができる。黑板情報の電子化を行う場合、受注者は、以下の1から4によりこれを実施するものとする。

1．使用する機器・ソフトウェア

受注者は、黒板情報の電子化に必要な機器・ソフトウェア等（以下、「機器等」という。）は、電子的記入ができるもので、かつ「電子政府における調達のために参照すべき暗号のリスト(CRYPTREC暗号リスト）」(URL「<https://www.cryptrec.go.jp/list.html>」)に記載する基準を用いた信性確認機能（改ざん検知機能）を有するものを使用するものとする。

2．機器等の導入

- （１）黒板情報の電子化に必要な機器等は、受注者が準備するものとする。
- （２）受注者は、黒板情報の電子化に必要な機器等を選定し、監督職員の承諾を得なければならない。

3．黒板情報の電子的記入に関する取扱い

- （１）受注者は、１の機器等を用いて業務写真を撮影する場合は、被写体と黒板情報を電子画像として同時に記録してもよいこととする。
- （２）本業務の業務写真の取扱いは、「電子化写真データの作成要領（案）」によるものとする。なお、上記（１）に示す黒板情報の電子的記入については、「電子化写真データの作成要領（案）６写真編集等」に示す「写真編集」には該当しないものとする。
- （３）黒板情報の電子化を適用する場合は、従来型の黒板を写し込んだ写真を撮影する必要はない。

4．写真の納品

受注者は、３に示す黒板情報の電子化を行った写真を、業務完了時に発注者へ納品するものとする。

なお、受注者は納品時にURL(<http://www.cals.jacic.or.jp/CIM/sharing/index.html>)のチェックシステム（信憑性チェックツール）又はチェックシステム（信憑性チェックツール）を搭載した写真管理ソフトウェアを用いて、黒板情報を電子化した写真の信憑性確認を行い、その結果を監督職員へ提出するものとする。

5．費用

機器等の導入に要する費用は、従来の黒板に代わるものであり、直接経費に含まれる。

第4章 業務管理

第4 - 1条（情報共有システム）

- 1．本業務は、受発注者間の情報を電子的に交換・共有することにより業務の効率化を図る情報共有システムの対象業務である。
- 2．情報共有システムは「工事及び業務の情報共有システム活用要領」（<https://www.maff.go.jp/j/nousin/seko/ASP/index.html>）によるものとする。
- 3．受注者は、発注者から技術上の問題の把握、利用にあたっての評価を行うために聞き取り調査等を求められた場合、これに協力しなければならない。

第5章 打合せ

第5 - 1条（打合せ）

共通仕様書第1 - 10条による打合せについては、主として次の段階で行うものとする。
また、初回の打合せには管理技術者が出席するものとする。

初 回 業務計画作成段階

第2回 中間打合せ（現地調査作業計画作成段階）

第3回 中間打合せ（健全度評価段階）

第4回 中間打合せ（機能保全計画書の策定段階）

最終回 報告書原稿作成段階

なお、業務を適正かつ円滑に実施するために、受注者の業務担当は、業務打合せ記録簿を作成し、上記の打合せの都度内容について、監督職員と相互に確認するものとする。

ただし、調査基準価格を下回る価格で契約した場合には、上記に定める打合せを含め、受注者の責により管理技術者の立会いの上で打合せ等を行うこととし、設計変更の対象とはしない。

その際、管理技術者は、共通仕様書第 1 - 11 条に定める業務計画書に基づく業務工程等の管理状況を報告しなければならない。

第 6 章 成果物

第 6 - 1 条（成果物）

成果物を共通仕様書第 1 - 17 条に基づき作成し、次のものを提出しなければならない。

- 1．成果物の電子媒体（CD-R 若しくは DVD-R）正副 2 部
- 2．成果物の出力 1 部（黒色表紙、金文字入り製本綴じ）

なお、報告書には本業務の要約版を掲載するものとするとし、その内容については別途監督職員の指示によるものとする。

第 6 - 2 条（成果物の提出先）

成果物の提出先は、次のとおりとする。

宮崎県都城市志比田町 4 7 7 8 - 1
九州農政局南部九州土地改良調査管理事務所

第 7 章 契約変更

第 7 - 1 条（契約変更）

業務請負契約書第 17 条から第 20 条に規定する発注者と受注者による協議事項は次のとおりとする。

- 1．第 2 - 2 条に示す「作業条件」に変更が生じた場合。
- 2．第 3 - 1 条に示す「作業項目及び数量」に変更が生じた場合。
- 3．第 5 - 1 条に示す「打合せ」に変更が生じた場合。
- 4．第 6 - 1 条に示す「成果物」に変更が生じた場合。
- 5．履行期間の変更が生じた場合。
- 6．その他

第 8 章 その他

第 8 - 1 条（定めなき事項）

この特別仕様書に定めなき事項又は本業務の実施に当たり疑義が生じた場合は、必要に応じて監督職員と協議するものとする。

1．現地調査作業項目内訳表

別紙 1

作業項目	作業内容	作業 実施	備考
1. 現地踏査	事前調査で得られた情報を参考に、2．現地調査作業項目数量表（別紙2）〔1/2、2/2〕に示すとおり、遠隔目視により変状の有無や変状箇所の特定を行い、踏査結果を整理する。あわせて、近接目視地点の変状状況を把握するものとする。	○	
2. 近接目視（線的構造物）	現地踏査により特定した地点及び過年度の近接目視地点において、2．現地調査作業項目数量表（別紙2）〔1/2、2/2〕に示すとおり、目視や簡易な器具による計測等の調査を行い、変状等を定量的に把握（ひび割れ、欠損、変形等計測、周辺観察等含む）するとともに、スケッチを作成する。	○	
3. 覆工コンクリート削孔	2．現地調査作業項目数量表（別紙2）〔1/2、2/2〕に示すとおり、隧道の覆工コンクリート厚及び背面の空洞等を確認するため、コアボーリングマシンで、隧道の上部の覆工コンクリートを削孔する。	○	
4. 水路トンネル空洞調査	隧道の覆工コンクリートを削孔した後、覆工厚、空洞厚、崩壊土の有無を鉄筋棒、コンベックス等で確認する。 調査箇所は、各隧道の代表地点とし、1地点あたり3箇所とする。	○	
5. 覆工コンクリート削孔部埋め戻し	隧道の覆工コンクリート削孔部を補修材により埋め戻す。	○	

2. 現地調査作業項目数量表

別紙2〔1/2〕

作業項目	作業数量	単位	備考
【水路トンネル】			
2号隧道			
1. 現地踏査	672.1	m	
2. 近接目視（線的構造物）	86	m2	1箇所
3. 覆工コンクリート削孔 コア径 50mm 上部方向	1	地点	n = 3箇所
4. 水路トンネル空洞調査	1	地点	n = 3箇所
5. 覆工コンクリート削孔部埋め戻し	1	地点	n = 3箇所
3号隧道			
1. 現地踏査	210.4	m	
2. 近接目視（線的構造物）	86	m2	1箇所
3. 覆工コンクリート削孔 コア径 50mm 上部方向	1	地点	n = 3箇所
4. 水路トンネル空洞調査	1	地点	n = 3箇所
5. 覆工コンクリート削孔部埋め戻し	1	地点	n = 3箇所
4号隧道			
1. 現地踏査	607.5	m	
2. 近接目視（線的構造物）	86	m2	1箇所
3. 覆工コンクリート削孔 コア径 50mm 上部方向	1	地点	n = 3箇所
4. 水路トンネル空洞調査	1	地点	n = 3箇所
5. 覆工コンクリート削孔部埋め戻し	1	地点	n = 3箇所
5号隧道			
1. 現地踏査	199.4	m	
2. 近接目視（線的構造物）	75	m2	1箇所
3. 覆工コンクリート削孔 コア径 50mm 上部方向	1	地点	n = 3箇所
4. 水路トンネル空洞調査	1	地点	n = 3箇所
5. 覆工コンクリート削孔部埋め戻し	1	地点	n = 3箇所
6号隧道			
1. 現地踏査	284.9	m	
2. 近接目視（線的構造物）	75	m2	1箇所
3. 覆工コンクリート削孔 コア径 50mm 上部方向	1	地点	n = 3箇所
4. 水路トンネル空洞調査	1	地点	n = 3箇所
5. 覆工コンクリート削孔部埋め戻し	1	地点	n = 3箇所
7号隧道			
1. 現地踏査	553.5	m	
2. 近接目視（線的構造物）	72	m2	1箇所
3. 覆工コンクリート削孔 コア径 50mm 上部方向	1	地点	n = 3箇所
4. 水路トンネル空洞調査	1	地点	n = 3箇所
5. 覆工コンクリート削孔部埋め戻し	1	地点	n = 3箇所
8号隧道			
1. 現地踏査	339.7	m	
2. 近接目視（線的構造物）	75	m2	1箇所
3. 覆工コンクリート削孔 コア径 50mm 上部方向	1	地点	n = 3箇所
4. 水路トンネル空洞調査	1	地点	n = 3箇所
5. 覆工コンクリート削孔部埋め戻し	1	地点	n = 3箇所

2. 現地調査作業項目数量表

別紙2〔2/2〕

作業項目	作業数量	単位	備考
9号隧道			
1. 現地踏査	121.5	m	
2. 近接目視（線的構造物）	85	m2	1箇所
3. 覆工コンクリート削孔 コア径 50mm 上部方向	1	地点	n = 3箇所
4. 水路トンネル空洞調査	1	地点	n = 3箇所
5. 覆工コンクリート削孔部埋め戻し	1	地点	n = 3箇所
10号隧道			
・機能診断対象区間			
1. 現地踏査	598.3	m	
2. 近接目視（線的構造物）	73	m2	1箇所
3. 覆工コンクリート削孔 コア径 50mm 上部方向	1	地点	n = 3箇所
4. 水路トンネル空洞調査	1	地点	n = 3箇所
5. 覆工コンクリート削孔部埋め戻し	1	地点	n = 3箇所
・補強済区間			
1. 現地踏査	1,220.4	m	
【開渠、暗渠】			
3号開渠			
1. 現地踏査	13.1	m	
2. 近接目視（線的構造物）	43	m2	1箇所
4号開渠			
1. 現地踏査	46.0	m	
2. 近接目視（線的構造物）	85	m2	1箇所
5号開渠			
1. 現地踏査	148.0	m	
2. 近接目視（線的構造物）	57	m2	1箇所
6号開渠			
1. 現地踏査	311.6	m	
2. 近接目視（線的構造物）	114	m2	2箇所
7号開渠			
1. 現地踏査	236.8	m	
2. 近接目視（線的構造物）	60	m2	1箇所
8号開渠			
1. 現地踏査	537.4	m	
2. 近接目視（線的構造物）	48	m2	1箇所
沈砂池・分土工・取付水路			
1. 現地踏査	84.6	m	
2. 近接目視（線的）	53	m2	1箇所
9号開渠			
1. 現地踏査	134.3	m	
2. 近接目視（線的）	52	m2	1箇所
2号暗渠			
1. 現地踏査	82.4	m	
2. 近接目視（線的）	94	m2	1箇所

3. 機能診断調査対象施設一覧表

別紙 3

施設名称・対象構造物	区分	構造物の規格・規模等	数量	備考
地区外導水路				
2号隧道	土木構造物	標準馬蹄形 2R=2.2m	L= 672.1m	空洞調査 No.0+20.0 付近 近接目視 L=12.0m
3号隧道	土木構造物	標準馬蹄形 2R=2.2m	L= 210.4m	空洞調査 No.17+20.0 付近 近接目視 L=12.0m
4号隧道	土木構造物	標準馬蹄形 2R=2.2m	L= 607.5m	空洞調査 No.27+30.0 付近 近接目視 L=12.0m
3号開渠	土木構造物	B=2.1m × H=2.3m	L= 13.1m	近接目視 L=9.0m
5号隧道	土木構造物	標準馬蹄形 2R=2.2m	L= 199.4m	空洞調査 No.33+40.0 付近 近接目視区間 L=10.5m (No.33+20.8 ~ No.33+31.3)
4号開渠	土木構造物	B=2.1m × H=2.3m	L= 46.0m	近接目視区間 L=17.8m (No.34+3.0 ~ No.34+20.8)
6号隧道	土木構造物	標準馬蹄形 2R=2.2m	L= 284.9m	空洞調査 No.40 + 20.0 付近 近接目視区間 L=10.5m (No.40+0.6 ~ No.40+11.1)
5号開渠	土木構造物	B=2.1m × H=2.3m	L= 148.0m	近接目視区間 L=12.0m (No.43+4.3 ~ No.43+16.3)
7号隧道	土木構造物	標準馬蹄形 2R=2.2m	L= 553.5m	空洞調査 No.0 + 20.0 付近 近接目視区間 L=10.0m (No.10+40.8 ~ No.11+0.8)
6号開渠	土木構造物	B=2.1m × H=2.3m	L= 311.6m	近接目視区間 L=12.0m (No.1+6.0 ~ No.1+18.0) L=12.0m (No.1+40.8 ~ No.2+2.8)

施設名称・対象構造物	区分	構造物の規格・規模等	数量	備考
8号隧道	土木構造物	標準馬蹄形 2R=2.2m	L= 339.7m	空洞調査 No.0+20.0 付近 近接目視区間 L=10.5m (No.6+8.7 ~ No.6+19.2)
7号開渠	土木構造物	B=2.1m × H=2.3m	L= 236.8m	近接目視区間 L=12.5m (No.10+17.9 ~ No.10+30.4)
9号隧道	土木構造物	標準馬蹄形 2R=2.2m	L= 121.5m	空洞調査 No.0 + 10.0 付近 近接目視区間 L=11.9m (No.1+48.9 ~ No.2+10.8)
8号開渠	土木構造物	B=2.1m × H=2.3m	L= 537.4m	近接目視区間 L=10.1m (No.12+39.5 ~ No.12+49.6)
沈砂池・分水工・取付水路工	土木構造物	沈砂池 L=50.0m 分水工 L=22.8m 取付水路工 L=11.8m	L= 84.6m	近接目視区間 L=11.1m (No.14+20.5 ~ No.14+31.6)
9号開渠	土木構造物	B=1.7m × H=1.7m	L= 134.3m	近接目視区間 L=14.3m (No.0+22.7 ~ No.0+37.0)
10号隧道	土木構造物	標準馬蹄形 2R=1.8m	L= 598.3m	空洞調査 NO.1 + 10.00 付近 近接目視区間 L=12.5m (No.10+27.5 ~ No.10+40.0)
2号暗渠	土木構造物	BOX B=2.0m × H=2.3m	L= 82.4m	近接目視区間 L=13.7m (No.37+4.9 ~ No.37+18.6)
隧道 全延長			L=3,587.3m	L 3.6km
開渠、沈砂池・分水工・取付水路工、暗渠 全延長			L=1,594.2m	L 1.6km

4. 機能診断作業項目内訳表（開水路、暗渠）

別紙4

作業項目	作業内容	作業 実施	備考
1. 業務準備	調査対象施設の周辺の地形、現況、諸施設について調査し、業務実施計画書策定のために必要な現地調査を行う。	○	
2. 事前調査			
2-1. 資料の検討	施設完成時の設計図書及び貸与資料内容の把握・整理し機能診断の基礎材料とする。	○	
2-2. 問診調査	施設管理者等から日常利用、操作等の不具合・変状箇所・事故履歴・補修履歴等について聞き取り調査を行い、施設機能に関する課題、問題点を把握・整理する。	○	
3. 施設機能の検討	2-1. 資料の検討及び2-2. 問診調査を基に、安全性、水利的な機能及び環境面からの要求機能について整理し、診断の重点箇所を確認するほか、要求機能を満足するための要求性能を設定する。	○	
4. 健全度評価	調査結果及び過年度業務を踏まえて、調査単位毎に施設の健全度の判定し、健全度評価の見直しを行う。	○	
5. 性能低下予測	4. 健全度評価及び過年度業務を踏まえて、現況施設の性能判定を行うとともに、性能管理指標を選定し、現地条件に適合する性能低下予測手法により、性能低下予測の見直しを行う。	○	
6. 機能保全対策の検討	調査結果及び過年度業務結果を踏まえて、現地状況に適合する対策工法を複数選定し、選定された対策工法・実施時期・実施範囲を組み合わせて対策シナリオの見直しを行う。	○	
7. 機能保全コストの算定	6. 機能保全対策の検討結果を踏まえて、対策シナリオ毎に機能保全コストを見直しし、比較する。（コスト算定のために必要な数量計算、設計図面作成を含む。）	○	
8. 機能保全計画書の策定	機能保全コストを最小とすることを基本としたうえで、施設影響度を踏まえたリスクや環境との調和、維持管理の容易さ等、多様な側面も総合的に検討し、機能保全計画書の見直しを行う。	○	
9. 農業水利ストック情報データの入力及び登録	上記の作業において作成した資料により農業水利ストック情報データベースの入力及び登録を行う。	○	
10. 点検とりまとめ	各作業項目の成果物の点検、取りまとめ及び報告書の作成を行う。	○	

5．機能診断作業項目内訳表（水路トンネル）

別紙 5

作業項目	作業内容	作業 実施	備考
1．業務準備	調査対象施設の周辺の地形、現況、諸施設について調査し、業務実施計画書策定のために必要な現地調査を行う。	○	
2．事前調査 2-1. 資料の検討	施設完成時の設計図書及び貸与資料内容の把握・整理し機能診断の基礎材料とする。	○	
2-2. 問診調査	施設管理者等から日常利用、操作等の不具合・変状箇所・事故履歴・補修履歴等について聞き取り調査を行い、施設機能に関する課題、問題点を把握・整理する。	○	
3. 施設機能の検討	2-1. 資料の検討及び2-2. 問診調査を基に、安全性、水利的な機能及び環境面からの要求機能について整理し、診断の重点箇所を確認するほか、要求機能を満足するための要求性能を設定する。	○	
4. 健全度評価	調査結果及び過年度業務を踏まえて、調査単位毎に施設の健全度の判定し、健全度評価の見直しを行う。	○	
5. 性能低下予測	4. 健全度評価及び過年度業務を踏まえて、現況施設の性能判定を行うとともに、性能管理指標を選定し、現地条件に適合する性能低下予測手法により、性能低下予測の見直しを行う。	○	
6. 機能保全対策の検討	調査結果及び過年度業務結果を踏まえて、現地状況に適合する対策工法を複数選定し、選定された対策工法・実施時期・実施範囲を組み合わせ対策シナリオの見直しを行う。	○	
7. 機能保全コストの算定	6. 機能保全対策の検討結果を踏まえて、対策シナリオ毎に機能保全コストを見直しし、比較する。（コスト算定のために必要な数量計算、設計図面作成を含む。）	○	
8. 機能保全計画書の策定	機能保全コストを最小とすることを基本としたうえで、施設影響度を踏まえたリスクや環境との調和、維持管理の容易さ等、多様な側面も総合的に検討し、機能保全計画書の見直しを行う。	○	
9. 農業水利ストック情報データの入力及び登録	上記の作業において作成した資料により農業水利ストック情報データベースの入力及び登録を行う。	○	
10. 点検とりまとめ	各作業項目の成果物の点検、取りまとめ及び報告書の作成を行う。	○	

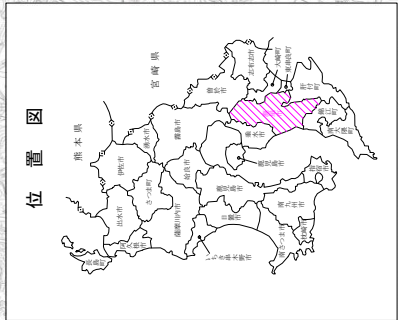
令和6年度
国営造成水利施設ストックマネジメント推進事業
笠野原地区地区外導水路機能診断調査業務

図 面 目 録

番号	名称	枚数
1	地区外導水路位置図	1
2	地区外導水路平面図	1
	合 計	2

地区外導水路位置図

S=1 : 25000



地区外導水路

高尾ダム

水路橋
止流・下流開水路
及び余水吐含む

1号開渠
1号暗渠

2号開渠

3号開渠

4号開渠
3号開渠
(放水路含む)

5号開渠
6号開渠
7号開渠

8号開渠
(沈砂池及び分水工、
取水水路含む)

9号開渠
排水機場
4号調整池
5号調整池
6号調整池

A 幹線水路

B 幹線水路

C 幹線水路

D 幹線水路

E 幹線水路

F 幹線水路

G 幹線水路

H 幹線水路

I 幹線水路

J 幹線水路

K 幹線水路

L 幹線水路

M 幹線水路

N 幹線水路

O 幹線水路

P 幹線水路

Q 幹線水路

R 幹線水路

S 幹線水路

T 幹線水路

U 幹線水路

V 幹線水路

W 幹線水路

X 幹線水路

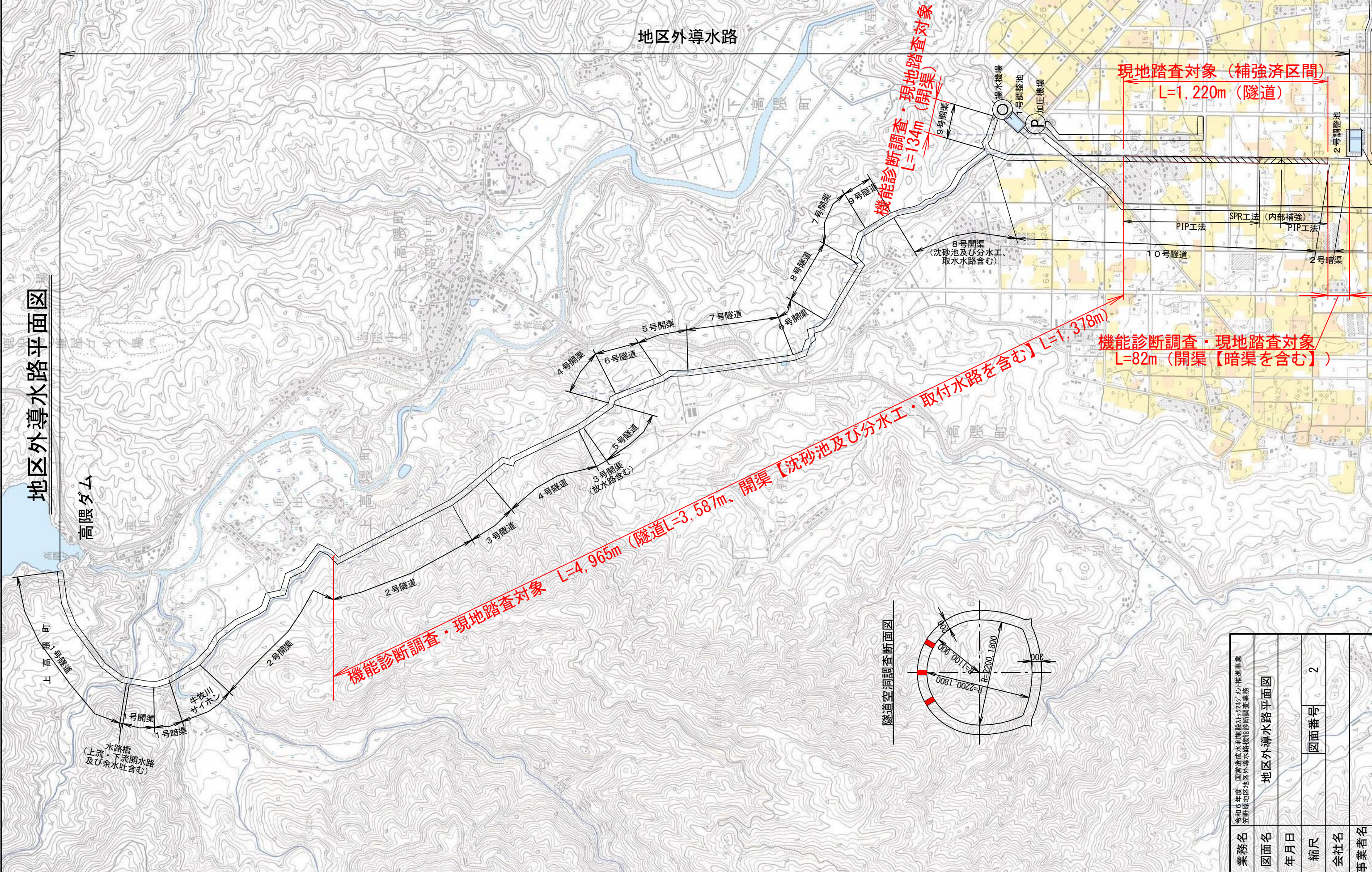
Y 幹線水路

Z 幹線水路

業務名	千葉県水利用課第1分庁「外導水路事業」 京野川地区地区外導水路機能診断調査業務
図面名	地区外導水路位置図
年月日	
縮尺	
会社名	
事業者名	
図面番号	1

1 : 25,000

地区外導水路平面図



令和6年度 富山県営 水害復旧事業	国土交通省 河川局
業務名	地区外導水路平面図
年月日	縮尺
会社名	図面番号
事業者名	2